

きたよこち なかさい いせき  
4. 北横地中才遺跡

所在地：坂井市丸岡町北横地

調査原因：北陸新幹線建設

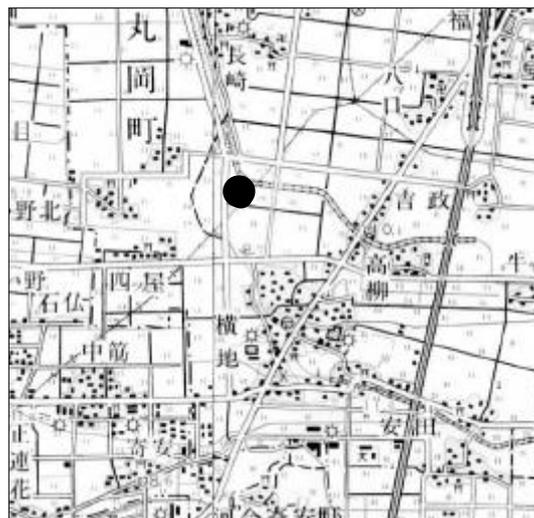
調査期間：平成30年5月1日～8月31日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：7,560 m<sup>2</sup> 第1地区 3,510 m<sup>2</sup>

第2地区 4,050 m<sup>2</sup>

時代：縄文時代晩期、弥生時代後期～古墳時代  
前期、古墳時代後期～古代、中世、近世



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 遺跡は坂井平野の南東部に位置します。遺跡の北側には兵庫川が南東から北西に向かって流れ、遺跡は兵庫川左岸の自然堤防上に立地します。

北陸新幹線の変電施設の建設に伴うもので、東側を第1地区、西側を第2地区と分割して発掘調査を行いました。現況は水田で、昭和40年代の圃場整備の際に地表付近の遺構は削平されており、遺構の残りは全体的に悪い状況にありました。

**遺構** 第1地区では、調査区の南側に遺構が集中し、中世の集落跡の一部を確認しました。中世の遺構には、井戸6基と溝3条があります。井戸のうち2基には、井戸側として曲物を使っていました。溝は、東西および南北方向に延びた屋敷の区画溝と考えられますが、このうちの1条 (SD3) は、0.5～1.0m間隔で柱の痕跡が並んでおり、塀または柵跡の可能性がります。他に、時期不明の掘立柱建物2棟、溝5条、土坑10基、自然河川1条が見つかりました。

第2地区では、調査区の南西隅で古墳時代前期の溝の一部を確認しました。調査区の東側に周囲の出土遺物から中世の可能性のある掘立柱建物2棟 (SB1・4) があり、この建物よりも古い自然河川1条 (SD1) と、近世～近代の溝1条 (SD2) などが見つかっています。SB1は1間幅2.2mを基準に、東西2間 (4.4m)、南北2間半 (5.65m) の規模、SB4は東西2間 (4.8m)、南北4間 (10.2m) の規模の建物です。

**遺物** 第1・2地区ともに、出土遺物は圃場整備で荒らされた後の表土層から出土した、非常に細かな破片がほとんどでした。しかし、縄文時代晩期・弥生時代後期～古墳時代前期の土器、古墳時代後期～古代の須恵器、中世の土器・陶磁器 (青磁・白磁・染付・瀬戸美濃焼・越前焼など)、近世の陶磁器・銅銭などが出土しており、長期間にわたる集落の営みがうかがわれます。第1地区の南側で中世の遺物がより多く出土し、第2地区の南西隅に弥生時代後期から古墳時代前期の遺物が集中していました。

**まとめ** 今回の発掘成果として、中世の区画溝、掘立柱建物、井戸などが見つかり、当時の集落跡の一部を確認できた点があります。このうち、第1地区で見つかった井戸は、出土遺物から12世紀～13世紀頃にさかのぼることが考えられます。 (櫛部正典)



北横地中才遺跡調査地遠景（南側上空から）



調査区南側の遺構（南から）



SD3 完掘状況（東から）



SE4 曲物を使った井戸枠（東から）



SE5 から出土した白磁